

# 風しんの発生状況等について

厚生労働省 健康局

2018年1月28日

# 風しんについて

## 概要

- ① 症状 : 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする。**無症状（15～30%）**～重篤な合併症併発まで幅広い。
- ② 合併症 : 血小板減少性紫斑病（1/3,000～5,000）、急性脳炎（1/4,000～6,000）、関節炎など。  
妊娠中の女性が感染すると児に**先天性風しん症候群(CRS)**が出現。
- ③ 潜伏期間 : 14～21日間
- ④ 感染経路 : 飛沫感染。感染力が強い※（**発症約1週間前～発疹出現後1週間程度感染力**がある）。
- ⑤ 治療・予防 : 対症療法のみ。予防にはワクチンが有効。

## 先天性風しん症候群（CRS）とは

※基本再生産数(R<sub>0</sub>):6-7（インフルエンザは1-2）  
基本再生産数とは、1人の患者から免疫がない何人に疾病をうつしうるかを示す数字

風しんに対して免疫のない女性が、特に妊娠初期に罹患した場合に出生児に引き起こされる障害。先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状。他、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたる。

## 風しん対策の概要

「風しんに関する特定感染症予防指針」（平成26年厚生労働省告示第442号、平成30年1月1日一部改正）

- 目標**：CRSの発生をなくすとともに、2020年までに風しんの排除を達成する。
- 定期予防接種の実施**：定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。（平成28年度：第1期 97.2%、第2期 93.1%）
- 抗体検査・予防接種の推奨**：普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。
- 自治体に対する技術支援**：風しん発生手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- 麻しん・風しん対策推進会議の開催**：施策の実施状況に関する評価、必要に応じた当該施策の見直し。

## 風しんとCRSの発生報告数の年次推移

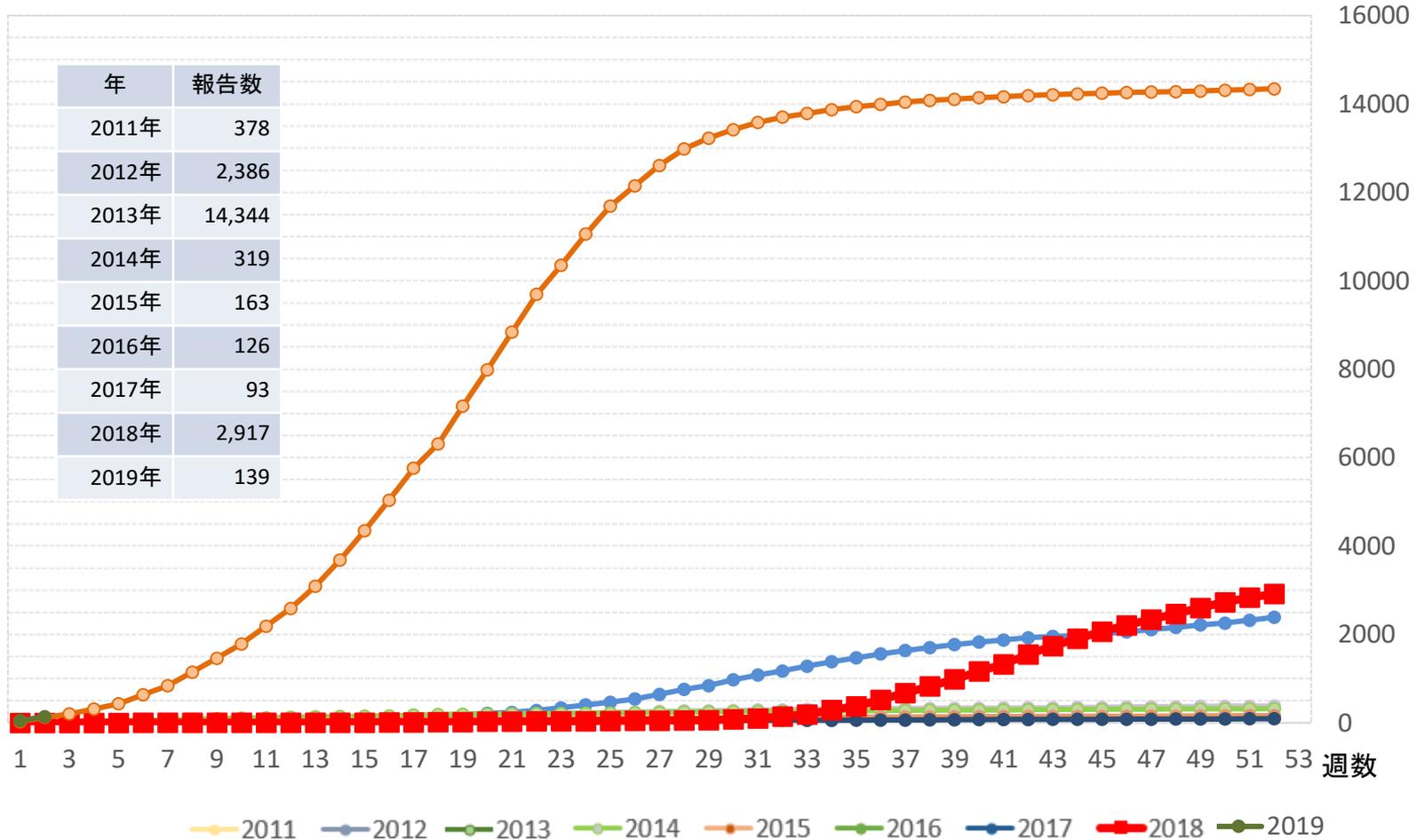
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
風しん(定点)	2,972	3,123	2,561	2,971	2,795	4,239	895	509	463												
風しん(全数)										294	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	93	2,917	139
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0	0

【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。2017年及び2018年は週報速報値（暫定値）、2019年は2019年1月16日時点の暫定値。

# 風しんの累積報告数の推移 (2011年第1週～2019年第2週)

2019年1月16日時点

風しん累積報告数

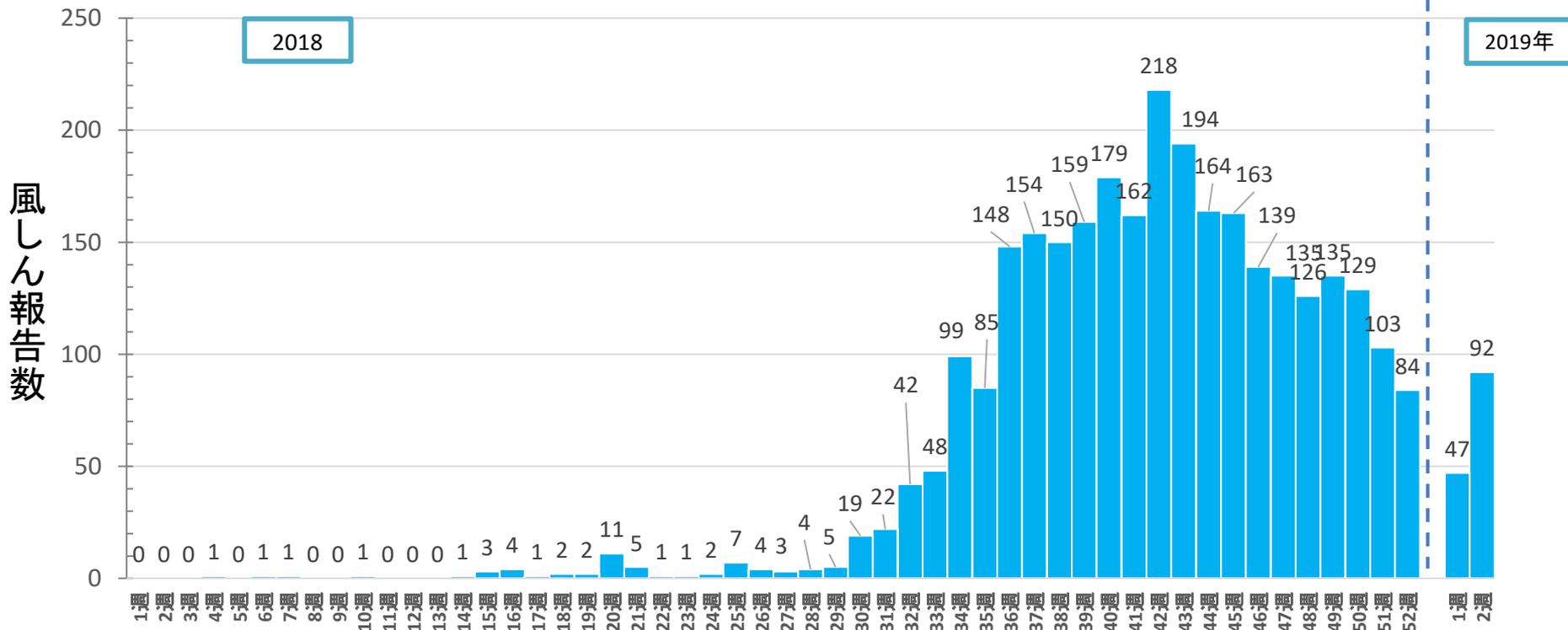


【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。

# 風しん報告数

2019年第1週～第2週、n=139 (2019年1月16日現在暫定値)  
 (2018年12月31日～2019年1月13日)

※第2週においては、第2週分として報告を受けた92例に、第1週よりも前の週分として報告を受けた2例を加えた94例が前週(45例)から増加  
 ※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,917)を掲載



【風しん・CRSの発生報告数の年次推移】CRSは1999年4月～開始(2006年の報告から感染地域が報告対象となった)

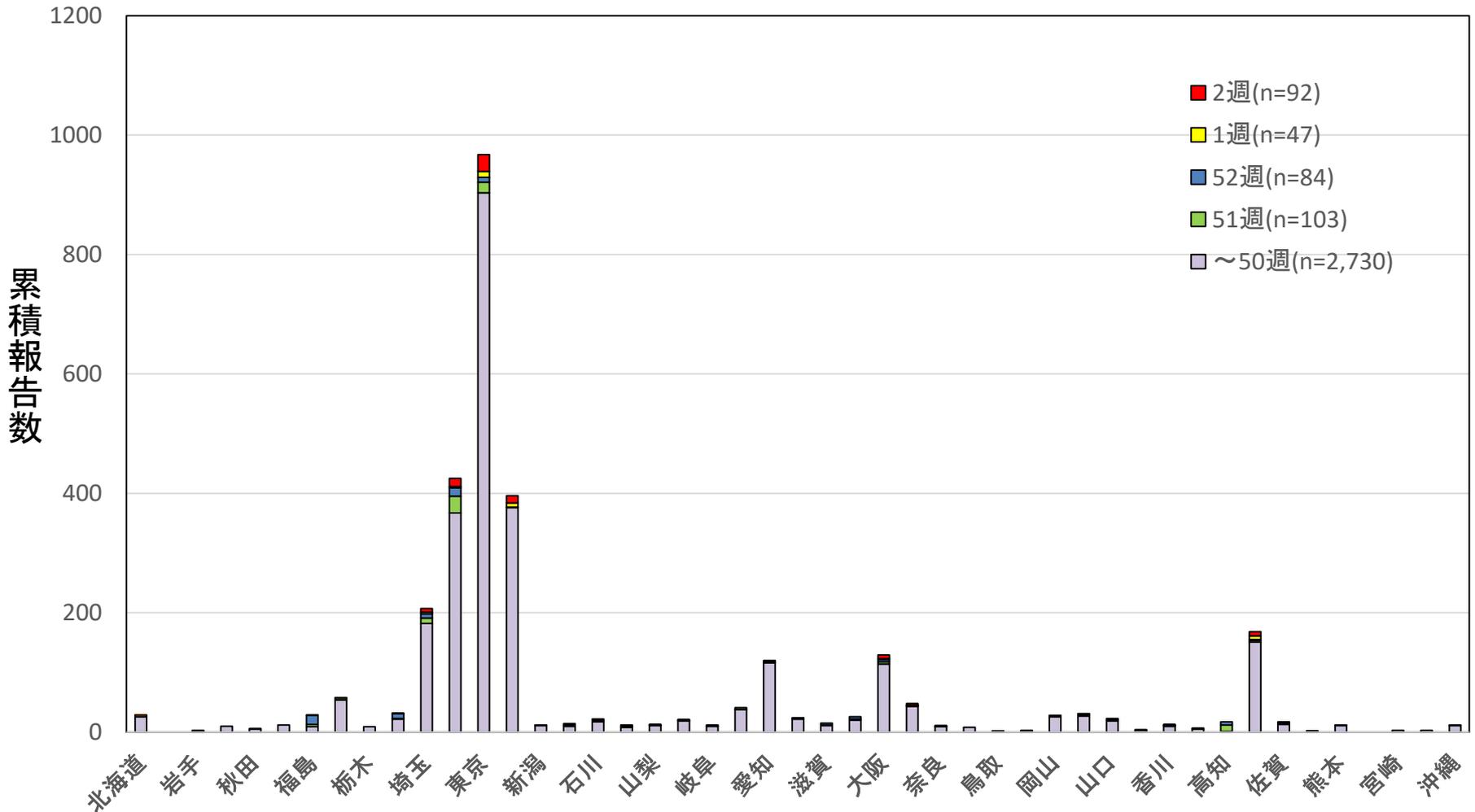
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
風しん										294	147	87	378	2386	14344	319	163	126	93	2917	139
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0	0

国立感染症研究所の感染症発生動向調査。2017年及び2018年は週報速報値(暫定値)、2019年は2019年1月16日現在の暫定値

# 都道府県別 累積風しん報告数

2019年第1週～第2週(n=139)2019年1月16日現在暫定値

※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,917)を掲載

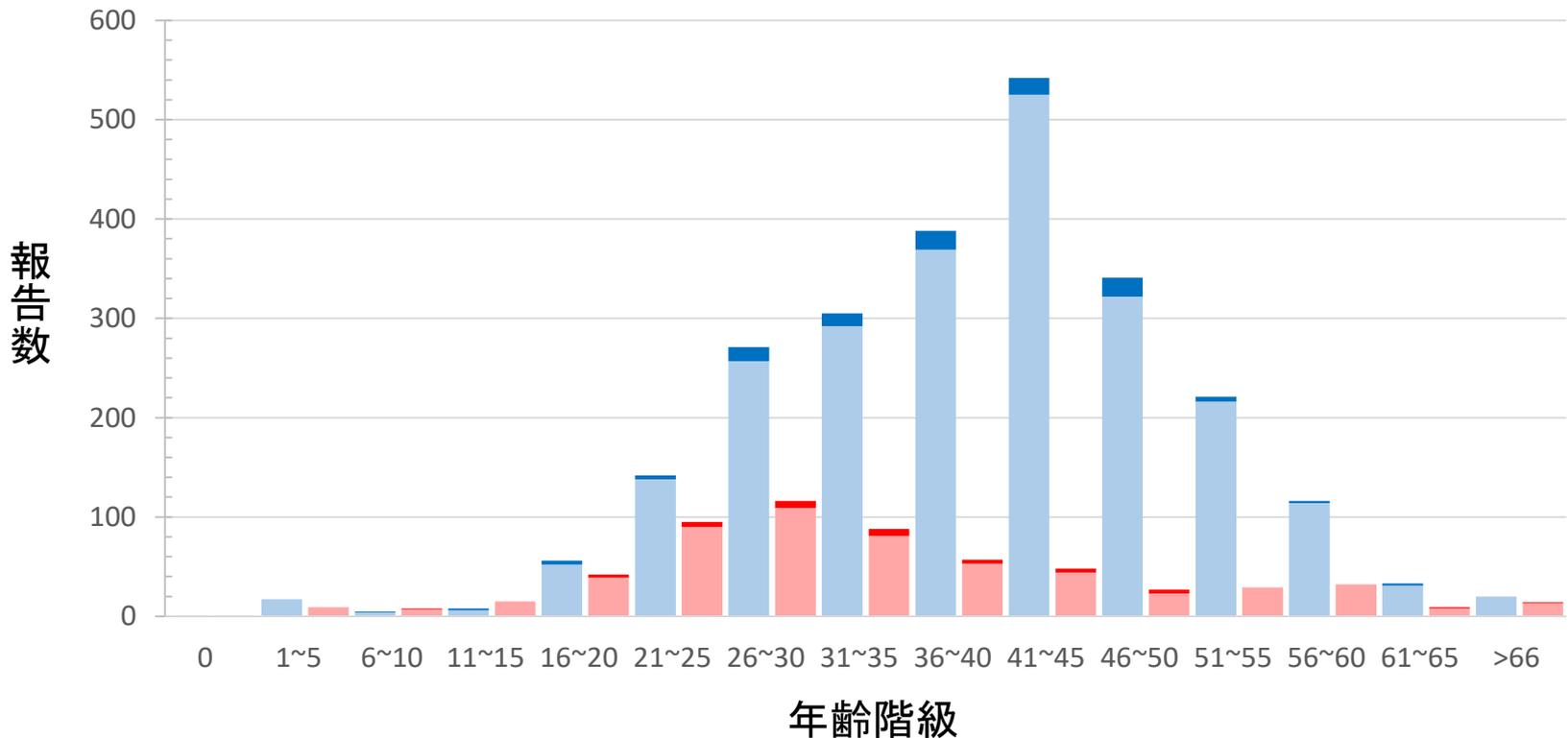


【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。

# 風しん報告数 (性・年齢階級別)

- 2019年第1週～第2週 (n=139) 2019年1月16日現在暫定値  
※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,917)を掲載

■ 男性(2018年)(n=2,364) ■ 男性(2019年)(n=102)

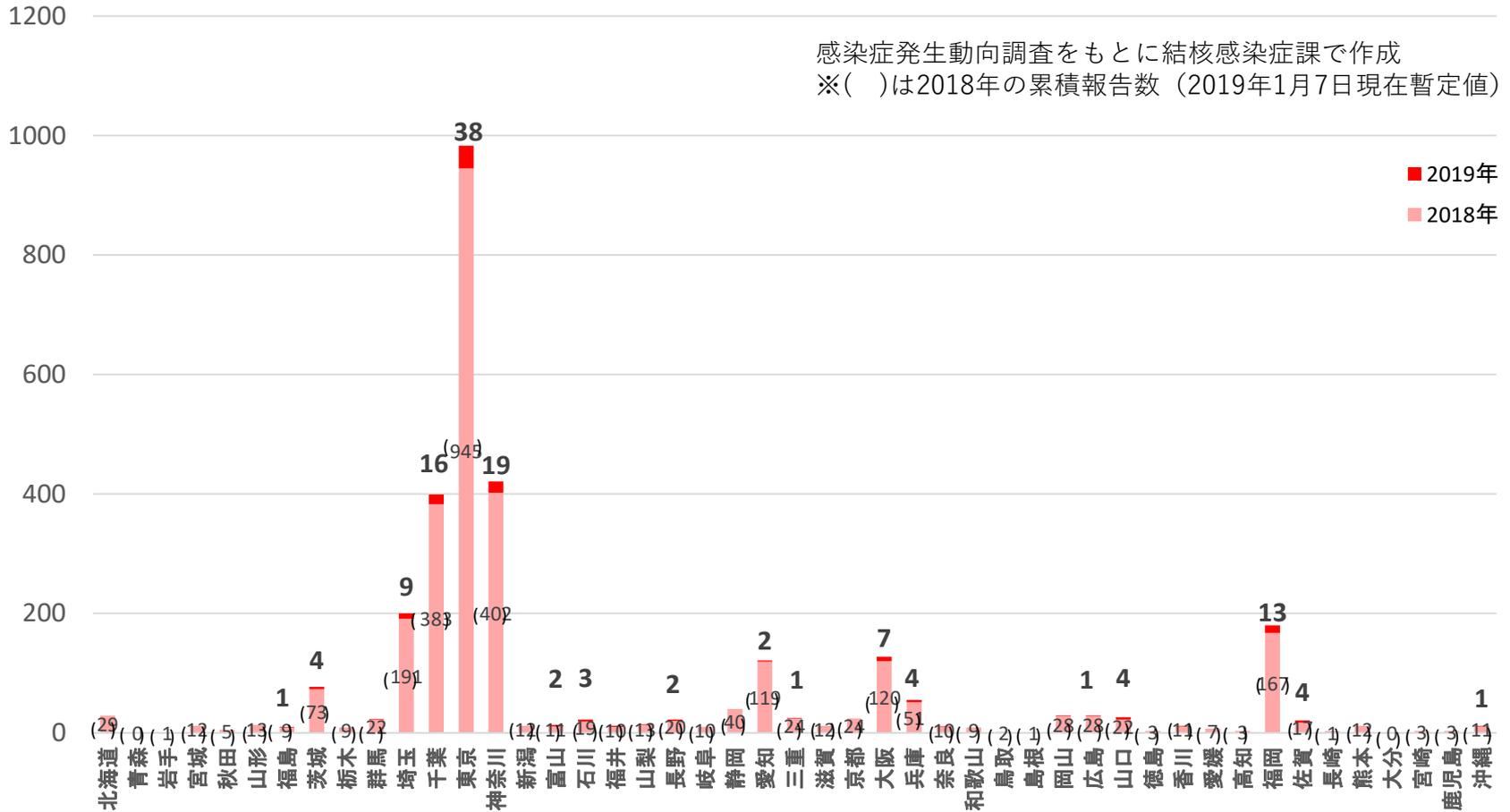


# 都道府県別風しん累積報告数

2019年第1週～第2週 (n=139) 2019年1月16日現在暫定値

※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,917)を掲載

風しん報告数

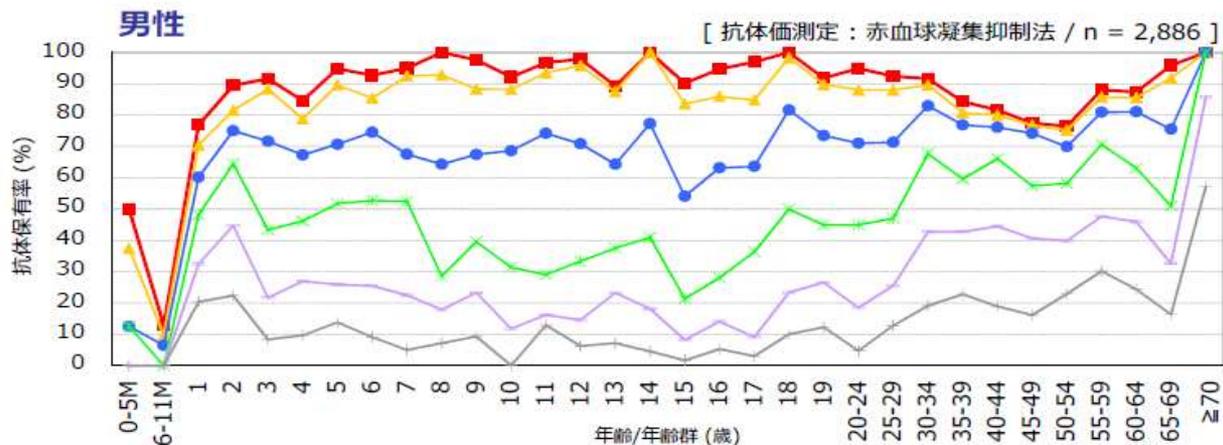


感染症発生動向調査をもとに結核感染症課で作成  
 ※( )は2018年の累積報告数 (2019年1月7日現在暫定値)

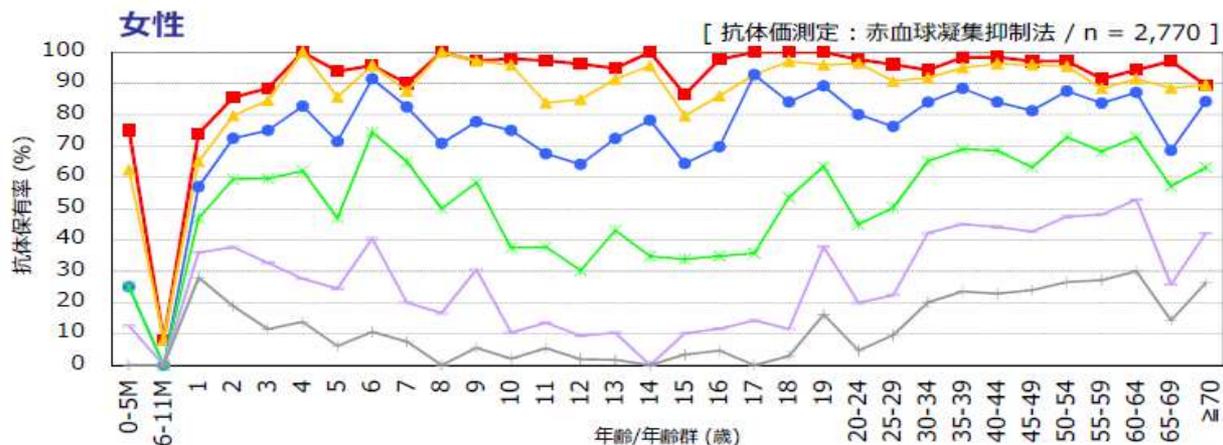
※都道府県別風しん報告数

第2週 (n=92) : 東京都 (n=28)、千葉県 (n=14)、神奈川県 (n=12)、福岡県 (n=7)、埼玉県・大阪府 (各n=6)、兵庫県 (n=3)、石川県・福井県・山口県・佐賀県 (各n=2)、茨城県・群馬県・山梨県・長野県・奈良県・岡山県・香川県・長崎県 (各n=1)

# 年齢・年齢群別の風しん抗体保有状況 (2017年)



※≥70歳群は10名未満の結果



※0-5か月群は10名未満の結果

抗体価 —■— ≥1:8 —▲— ≥1:16 —●— ≥1:32 —◆— ≥1:64 —◇— ≥1:128 —○— ≥1:256

流行予測2017

2017年度感染症流行予測調査